

発言No.

21

受付No.

17

令和 3 年 6 月 10 日

10 時 32 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 8 番

氏名 小川稔宏

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 ヤングケアラーの実態把握と必要な支援について

国の調査結果では中高生の約 20 人に 1 人が家族の介護や家事を担い、世話を割く時間は 1 日平均 4 時間で、7 時間以上との回答も 1 割あり、学習時間に影響する深刻な実態もある。学校含め「相談したことがない」が 3 分の 2 程度で外からの支援が不可欠である。

(1) ヤングケアラーに対する支援策について

- ①国のヤングケアラー実態調査の結果が出たが、浜田市の実態との関連性を伺う。
- ②相談しやすい環境、支援の必要性のある事例への取組などの対応状況について伺う。

2 「生理の貧困」とジェンダー平等について

経済的事項から生理用品が満足に買えないことでの健康への影響や、親から買ってもらえないといったネグレクトの問題も指摘されている。古来からの迷信・差別や偏見の払拭も課題である。

(1) 生理用品の無償配布について

- ①先進自治体では生理用品の無償化の動きがある。災害用備蓄品の入替時の配布状況及び市民への周知について伺う。
- ②学校や図書館など公共施設で生理用品を無償配布すべきと考えるが所見を伺う。

(2) ジェンダー平等・多様性の推進について

- ①パートナーシップ宣誓制度の導入や、性的指向及び性自認 (SOGI) に関する差別禁止の取組などにより啓発と意識の醸成を図るべきと考えるが認識を伺う。

3 難病患者及び家族への支援策について

指定難病に対しては医療費助成などが整備されているが、難病でありながら「患者数が人口の 0.1% 程度に達しないこと」という基準により、指定難病に該当しない難病患者には支援制度がないため、精神的・経済的に生きづらい実態がある。

(1) 指定難病の要件緩和について

- ①指定難病適用外の難病患者及び家族の現状を把握し、市の判断で実施可能な支援策を検討すべきと考えるが、現在の状況を伺う。
- ②指定難病要件や障害年金給付条件の見直し等も含め、適用外の難病患者への支援拡充を国・県へ要望すべきと考えるが所見を伺う。